



徳島商業高校

校内模擬会社ComCom

高校生ボランティア・アワード
2022



活動団体プロフィール

徳島商業高校校内模擬会社ComComは、「人と人をつなげて新たなビジネスを創っていききたい」という思いで、平成23年6月にビジネス研究部内に発足しました。
現在は、「時を守り・場を清め・礼を正す」という社訓のもと、徳島から世界へ商業活動をグローバルに展開し、地域の復興や発展に寄与するため活動をしています。

まちに笑顔のいろどりを ～上勝から繋がる交流の場～

活動概要

私たちは、これまで海外との交流で、地域の復興や発展に寄与するための活動を行ってきた。これらで得たものを生かして、何か活動できないか。そこで、日本初のゼロウェイスト宣言に成功しようとしている、徳島県勝浦郡上勝町に注目した。しかし、上勝町では高齢化や人口減少が進み、限界集落に挙げられている。私たちはこの現状を知り、上勝町の力になれないかと、上勝町と連携を始めた。上勝町をテーマとしたデジタルコンテンツ制作や、SDGsの目標達成のために持続可能な商品を開発し、全国への情報発信とオンラインでの販売活動を行う。そうすることにより、上勝町を訪れる観光客や移住者が増えるきっかけ作りにつなげ、将来は徳島県全体の魅力が向上するのではないかと考えた。これらを実現させるため、私たちは「ICTを活用したデジタル社会の実現」「環境を考えたグリーン社会の実現」の2つの柱を立て取り組むことにした。





いつまでも幸せに暮らせる町づくり

活動の目的・志など

私たちが考えている最終目標は、観光ビジネスを活用することで人口の減少を食い止め、いつまでも住み続けたいと思えるような町づくりにあることだ。理由として、現在の勝浦郡上勝町は、若者の県外流出や高齢化が進んでおり、人口減少している。また、限界集落にもあげられている。上勝町の魅力を向上させるため、私たちが実施したいことは

- ・上勝町の特産品を使い、SDGsの目標達成のための商品を開発すること
- ・観光客や移住者の増加のため、上勝町のPR活動を行うことである。

このことは、SDGs（持続可能な開発目標）の「8.働きがいも経済成長も」「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」「11.住み続けられるまちづくりを」「12.つくる責任つかう責任」「13.気候変動に具体的な対策を」「15.陸の豊かさも守ろう」の達成につながると考えている。

全国に広げるゼロ・ウェイスト ～GIGAスクール環境を活用した新たな挑戦～

今後の展望・夢など

私たちが開発した商品を通して、今よりも多くの人に上勝町の魅力を知ってもらおうと同時に、上勝町が取り組んでいる「ゼロ・ウェイスト」の知名度を上げるためにも、販売場所を広げていきたいと考えている。
また、2025年の大阪・関西万博でより完成度の高い作品を発表するための土台作りとして8KVRやドローンを使った映像技術を身に付けるべく計画を練り、徳島県を世界に発信していきたい。





徳島新聞での掲載



目指せ！ごみゼロ包装
ユコウ味 阿波ういろ、商品化
間伐材の木箱 廃材から布

NHK全国放送「おはよう日本」



高校生たちが開発
「ごみ出さない」お菓子
徳島商業高校シニア研究部
栗田 真さん

木箱は上勝町の間伐材を使っていたり

活動の詳細



1 「環境を考えたグリーン社会の実現」

地元の製菓業者である福岡さんと協力し、上勝町をPRするための取り組みとしてお土産の商品開発をした。開発した商品は、上勝町の特産品である「ゆこう」と、徳島県で有名な「阿波ういろ」を組み合わせたものになっている。
※阿波ういろは、日本三大ういろの1つであり、徳島県の特産品である和三盆糖、餡ともち米を蒸した和菓子。

- 商品開発
 - 木箱（林業を支える）
上勝町の木材には、「木を切っても赤字になる」「木が売れない」などの森林資源活用のリサイクルが悪いという課題がある。木材が活用されるきっかけ作りとして、上勝町の間伐材を使用することにした。（制作は地元の加工業者がらくた工房さんに依頼）
 - 風呂敷（プラゴミ削減）
ペットボトルを再生した繊維布を使用。ペットボトルを使用した繊維布は市場には流通していないため、東レ株式会社特別に制作していただいた。風呂敷への加工は部員自ら、ミシンで行った。木箱や風呂敷は、捨てずに小物入れやインテリア、ランチョンマットなどに繰り返し活用できる。
- 販売活動
商品化されたものを、3個入り380円（ういろのみ）で販売
販売場所：JAあいさい広場、生け花草月流のイベント
東京で行われたイベントMUSUBU
いっきゅう茶屋、徳商デパートなど

商品はすべて完売し、アンケート調査を行ったところ、お褒めの言葉をいただいた。

- 販売活動を通して浮かび上がった課題
 - ゆこうの味があまり感じられない
 - ういろがすぐに固くなった
- 商品の改良
立命館大学や辻調理師専門学校と協力し、よりよいういろの製作を目指すした。
 - 捨ててしまうゆこうの果皮や果肉を使う
 - すぐ固まらないよう無添加にする
- 結果
改良した商品を、はなはるフェスタやJAあいさい広場、JAあぐりあなんスタジアムで販売活動を行ったところ、高い評価を得ることができた。

2 「ICTを活用したデジタル社会の実現」


観光のPR動画を制作するだけでなく、GIGAスクール環境を活用して、観光と教育を組み合わせたいデジタルコンテンツを、経済産業省のSTEAMライブラリーに掲載していただいた。私たちが制作した映像は全部で4つ。そのうち上勝町で撮影した、いろどり編、ゼロ・ウェイスト編、田舎暮らし編の3つで構成された本編では、私たち高校生が出演している。これらの映像では「ICTを活用した新たなビジネス」「45分別を行っているゼロ・ウェイストセンターでの活動」「都会と田舎での生活の違い」について詳しく学べる内容になっている。

- いろどり編について
上勝町の葉っぱビジネスを私たちが実際に体験し、シルバービジネスについて学ぶ内容になっている。高齢化が進む上勝町でのいろどりの取り組みは従業者にとって負担が大きく、IoTを活用することで成り立っている。私たちがタブレットからのつまもの注文を受け、現在もいろどりをやっている西隆さんにご指導いただきながら葉っぱを収穫し、その日のうちに包装して発送するまでの一連の作業を行った。
- ゼロ・ウェイスト編について
私たちはゼロ・ウェイストセンターで行っている45分別の取り組みを体験した。リサイクル・リユースできる資源、その活用方法について深く知ることができると同時に、45分別の取り組みが、未来をどのように良くしていくのかを紹介している。
- 田舎暮らし編
田舎暮らしの良さを伝えるために、私たち高校生が田舎での生活を満喫し、紹介していくリアリティーショーを制作した。上勝町に移住し、事業を展開している松本さんや黒川さんとお話を伺うことで、田舎暮らしと住んでいる町の未来について学べる内容になっている。
- STEAMライブラリー特別編
特別編（ドローン・VR映像）は映像を通じて「上勝町」という場所を知るとともに「上勝町」の魅力を探ることを目的として制作されたコンテンツである。上勝町の上空から始まり、檜原の棚田、勝浦川上流、いろどり橋、轟の滝、灌頂ヶ滝、上勝町ゼロ・ウェイストセンターを空から撮影している。




STEAMライブラリーに掲載

steAmいのちシリーズ ～いのち輝く場：上勝町～



ワークシートも自作作成

【今後の展開】

制作したデジタルコンテンツをSTEAMライブラリーに掲載していただいたが、まだまだ認知されていない。今よりも認知していただくためにも、今年度の活動を「デジタル教材の普及」に定めていく。

- ①本校で実際に教材を使用する。
- ②徳島県内の小・中・高校と連携し 私たちの映像を授業で使用する。